

新 町内8校で入学式 新たな学校生活スタート

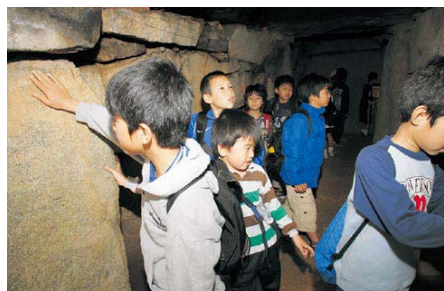
町内の小学校5校で4月10日に、中学校3校で4月11日に入学式が行われました。本年度の新1年生は小学校で224人（上野小26・市場小52・金田小82・弁城小13・伊方小51）中学校で233人（赤池中95・金田中72・方城中66）。落成したばかりの市場小では、児童たちが保護者に手を引かれ、ピカピカの校舎に目を輝かせていました。



↑初めて子どもたちを迎える市場小の教室、机にはられた名札にニコリ。

伊方古墳一般公開 太古のロマンに思いをさせて

田川地域では最大級の横穴式石室である伊方古墳が、4月21日から2日間、遠賀川流域の8つの古墳とともに一般公開されました。復室で全長約11mを測る伊方古墳は、花こう岩の巨石で造られ、石材の間には粘土の目詰めを行うなど丁寧な造りがなされています。およそ70人が訪れ、貴重な県指定史跡の石室を珍しそうに観察していました。



↑太古のロマンに思いをさせながら、通常非公開の石室をじっくりと見学。

↓鯉のぼり募集に町内から20件の寄贈があり、おかげで今回継続できました。



彦山川河川敷鯉のぼり掲揚 春風に舞う五月鯉100匹

菜の花の上に鯉のぼりが泳げば、福智町は春真っ盛り。恒例となる「ひこさんがわ夢の会」の鯉のぼり掲揚が4月19日に行われました。春の風物詩となったこのボランティア活動は、今年で9回目。上野焼協同組合も参加し、上野橋から4方向に張ったワイヤに、大きさや配色のバランスを考えながら、約2時間ほどの作業で100匹を泳がせました。

↓斜面を埋めつくす梨の花、ひとつの花芽からいくつもの花を咲かせます。



斜面に広がる純白のじゅうたん 赤池梨の花満開に

桜とほぼ同時期に、町内の梨園が満開になりました。花の形も桜にそっくりな梨の花は、直径およそ3cm。真っ白い花びらが特徴です。山肌を利用した赤池梨の農家では、この時期に余分な花を摘む「摘花」や、梨の交配を助ける「受粉」の作業がピークを迎えました。満開の梨園を見下ろすと、真っ白いじゅうたんが一面に広がっているようでした。

↓ラストは福智町出身の作曲家・河村光陽の代表曲「かもめの水兵さん」「グッドバイ」を出演者全員で合唱



第1回 福智町音楽祭 涙さそう感動のハーモニー

初回となる福智町音楽祭が3月25日に同和対策研修センターで開かれました。2部構成の第1部「ふくちの歌声」では「ムジーク・ブラッツ」「方城町老人大学コーラス教室」「ベル・アルモニア赤池」の町内合唱団が自慢の歌声を披露。第2部ではコーラス界の第一人者として知られるデュークエイセスの4人を迎え、グループの代表曲や童謡、おなじみの曲で日本全国を旅するメドレーなど20曲以上のハーモニーが魅了し、360人が集まった会場では、感動で涙する場面もみられました。

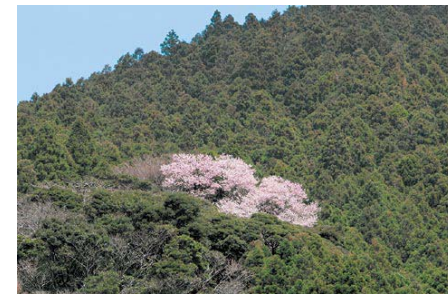
自然観察会 見応え十分な文化自然めぐり

虎尾桜を心配する世話人会主催の自然観察会が、4月1日に開かれました。およそ30人が参加し、上野焼血山本窯跡～福泉防～福智中宮～白糸の滝～虎尾桜～源平桜の順に訪ね歩きました。虎尾桜や濃色と淡色の一対である源平桜は満開のピークをわずかに過ぎていましたが、見応えは十分。特に初参加の人は、大きな感嘆の声をもらっていました。



↑今年も数千人が花見に訪れた虎尾桜、咲き誇る姿で参加者を迎えました。

↓山間に咲いた鮮明なエドヒガン、弁城の山麓に約30本が点在しています。



鮮やかな町の財産に観光資源の可能性

3月下旬から4月上旬にかけて、弁城地区の福智山麓で、30本ほどのエドヒガンの開花が確認されました。希少種のエドヒガンがこれほど生育している場所は、県下どこにもないと言われています。町文化財専門委員の熊谷信孝さんは「岩屋だけでも20本は咲いています。町の貴重な財産」と説明。今後、町の観光資源としても大いに期待できます。